

# 医療的ケア児地域生活を支える多職種連携の評価尺度の開発

渡邊 理恵 ●久留米大学 医学部看護学科 講師



渡邊理恵

## 要旨

2021年に制定された「医療的ケア児とその家族に対する支援に関する法律」の目的の一つに「医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職の防止に資する」ことが明文化されている。医療的ケア児と家族の当たり前の地域生活を支えるためには、医療・福祉・保育・教育・行政等の多職種連携活動が機能することが重要である。

しかし、地域の支援者は、それぞれの職種がどのように役割を果たしながら連携すればよいか、相互に理解することが難しい現状がある。そこで、本研究は、実際に連携活動を行っている多職種の方々に質問紙調査を行い、医療的ケア児に関わる多職種連携活動の促進・阻害要因を抽出し、その結果に基づき多職種が共有できる評価尺度を開発することを目的とした。

## 地域医療貢献のポイント

本研究により開発される医療的ケア児多職種連携活動の評価尺度は、職種にかかわらず、それぞれの立場の専門職の連携活動の指標となり、連携活動が促進される。その結果、「医療的ケア児とその家族の健康とQOLの向上」という社会的成果をもたらすことが期待できる。

## 1. 目的

現在、医療的ケア児は全国に約2万人と推計され約10年間で2倍に増加している。近年、医療的ケア児は社会の障害者(児)を受け入れる価値観の変化、在宅医療の進歩、地域ケア体制の整備などにより家庭環境のもとで生活することが可能となった。しかし医療的ケア児の多職種連携は、病状や成長発達に伴うケアニーズの変化に応じて、関わる専門職のメンバーが多様である。専門領域や事業所の垣根を越えて、課題を共有しながら連携活動を展開するためには、一般化された評価指標が必要となる。しかし現在、個人評価尺度は開発されているが、チームの状況を含めた評価尺度は見当たらない。そこで多様な専門職の連携活動の指標となる医療的ケア児「多職種連携活動の評価尺度」を開発することを目的とする。

## 2. 研究方法

### 1) 自記式質問紙調査の作成

#### 多職種連携に関する概念の抽出

電子データベースPubMedにて検索式Interprofessional + Collaboration + Community + Networkにて20編の論文を抽出し、文献レビューから連携活動の促進・阻害要因の視点で網羅的に整理し、連携活動の概念を前提・活動・成果の3つの構造で整理した。

#### 質問項目の抽出

多職種連携の概念から質問項目を作成した。その内容妥当性は多職種連携の専門家である研究者と検討を重ねて行い、予備調査として当事者家族、相談支援専門員、訪問看護師、訪問介護士、学校看護師で実際に医療的ケア児多職種連携の活動に取り組んでいる実践者の意見を反映させて質問項目を精選し、抽出した。質問項目は、前提・活動・成果に関する質問55項目とし、採点

には7点のリッカート法を用いた。

## 2) アンケート実施

① **調査対象**：内閣府の8地区の最少人口と最多人口自治体及び北海道と沖縄の18都道府県を選択した。この中で医療的ケア児の地域支援に取り組んでいることが予測される相談支援専門員、訪問看護師、訪問介護士（ヘルパー）、特別支援学校の養護教諭及び学校看護師を対象とした。

② **調査期間**：2024年4月～6月

## 3) 倫理的配慮

本研究は、久留米大学の倫理委員会の承認を得て行った（承認番号23201）。各事業所の施設長と参加者には本研究の目的と方法、参加は任意であることについて文章で説明し、質問紙に回答することで、インフォームドコンセントを行ったとみなされた。また匿名性は守られた。

## 4) 分析方法

**因子分析**：最尤法、プロマックス回転有意確率0.05に設定。各因子の因子負荷量は0.4以上とし、因子数の決定は固有値1以上のものを選定した。因子の内的整合性の検証はCronbachの $\alpha$ 係数を0.8以上とした。

## 3. 結果

### 1) 回収率と有効回答

**送付**：3820施設に2部のアンケート送付

**回答数**：538 **回収率**：14.1%

**有効回答数（率）343（63.8%）**：因子分析に妥当なサンプルサイズと判断した（1項目当たり6.2名）。

看護師（186）、相談支援専門員（84）、学校看護師・養護教諭（46）、訪問介護士（27）

### 2) 多職種連携を構成する因子構造

**前提要因**：「交流による課題の共有」「立場の尊重と役割の理解」

**連携活動**：「活動の質向上に向けたリーダーシップの発揮」「専門性を活かしたチームへの貢献」「本人・家族のニーズに基づいた連携」「評価を活かした活動の改善」

**成果**：「専門職の役割意識の向上」「本人と家族の健康とQOLの向上」「チームの連携環境改善」

表1 医療的ケア児多職種連携活動評価指標（原案1部）

1事例における一つの課題に取り組んだ評価

|                                           |                                        |
|-------------------------------------------|----------------------------------------|
| <b>I 個人評価（自分の取り組みの評価）</b>                 |                                        |
| 1                                         | 私はチームメンバーと気軽に会話している                    |
| 2                                         | 私はチームメンバーに積極的に相談や質問をしている               |
| 3                                         | 私はチームメンバーと取り組む課題について共通理解している           |
| 4                                         | 私はチームメンバーとの認識や考え方のギャップを埋める努力をしている      |
| 5                                         | 私は責任をもって自分の専門職としての役割を果たしている            |
| 6                                         | 私は他の職種のチームメンバーの役割を理解している               |
| 7                                         | 私は他のチームメンバーの多様な意見を尊重している               |
| 8                                         | 私は他のチームメンバーの専門性・信念・価値を理解している           |
| 9                                         | 私はチームメンバーの間で「専門用語」を使わず「わかりやすい用語」を使っている |
| 10                                        | 私は他のチームメンバーの支援活動に協力している                |
| <b>II チームの活動評価（自分を含むチーム全体の評価）</b>         |                                        |
| 1                                         | チームは、全メンバーで活動内容や支援方法を決定している            |
| 2                                         | チームは、他の職種のメンバーの専門的支援の内容を理解している         |
| 3                                         | チームは、他の職種のメンバーと協力し合っている                |
| 4                                         | チームは、メンバーの専門性を発揮して課題解決している             |
| 5                                         | チームは、各メンバーの支援の悩みや困難点を理解している            |
| 6                                         | チームは、医療的ケア児と家族に課題に関する意見を聞いている          |
| 7                                         | チームは、医療的ケア児と家族のニーズに基づいて支援をしている         |
| 8                                         | チームは、支援の方法について医療的ケア児・家族と話し合っている        |
| 9                                         | チームの連携の目的は、医療的ケア児と家族の健康とQOLの向上である      |
| 10                                        | チームは、医療的ケア児と家族が主体的に取り組む支援をしている         |
| 11                                        | チームは、知識に基づいて根拠のある支援を行っている              |
| 12                                        | チームは、社会資源を効率的に活用している                   |
| 13                                        | チームは、医療的ケア児と家族の意見を反映し活動の成果を評価している      |
| 14                                        | チームは、医療的ケア児と家族の健康とQOLについて評価している        |
| 15                                        | チームは、全メンバーで支援の改善策を検討している               |
| <b>III リーダーの役割評価（リーダーの自己評価・メンバーの他者評価）</b> |                                        |
| 1                                         | チームリーダーは、メンバーの意見を積極的に聞いている             |
| 2                                         | チームリーダーは、メンバーの人間関係の調整を行っている            |
| 3                                         | チームリーダーは、メンバー間の役割を調整している               |
| 4                                         | チームリーダーは、活動の質の向上にむけて、適宜情報共有をしている       |
| 5                                         | チームリーダーは、評価に基づいた支援の修正等を全メンバーに伝え、共有している |

2025年4月 久留米大学医学部看護学科発達障害学専攻作成

### 3) 医療的ケア児多職種連携評価尺度原案の作成

アンケート結果に基づいた因子構造の下位項目を質問項目として評価尺度を作成した（表1）。全30項目60点（個人評価10項目：20点・チーム評価15項目：30点・リーダー評価5項目：10点）

## 4. 考察および今後の展望

「医療的ケア児とその家族に対する支援に関する法律」が2021年に制定され、全国的に多職種連携活動のあり方が模索され始めた現状において、実態調査に基づき作成した本評価尺度は、連携活動の促進を図るための実用性の点で意義あるものと考えられる。しかし本尺度は原案であり、一般的に活用可能とするためには、再現性・妥当性の検証を繰り返し、多様な対象者や連携場面においても汎用性のある標準化された評価尺度の開発に取り組む必要がある。